

Title	目次
Sub Title	
Author	
Publisher	三田社会学会
Publication year	2020
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.25 (2020. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20201120--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田社会学

第25号

2020年

特集：マス・コミュニケーション研究と社会理論

特集「マス・コミュニケーション研究と社会理論」に寄せて メディア・コミュニケーション研究の危機	山腰 修三	1
——メディアの偏在化と学問的求心力の低下	津田正太郎	4
可視化されるフェミニズム——ポリティクスとエコノミーのはざままで ジャーナリズムと構築主義	田中 東子	15
——「現実の社会的構築・構成過程」を新たに発見するために マス・コミュニケーション研究と社会理論：討論者コメント	山口 仁 大石 裕	30 44

論文

中国人高度人材の家族関係の維持とモビリティ ——東京都における異文化間結婚の事例を通して	王 暁音	49
1950年代及び60年代におけるサラリーマンイメージの変容過程 ——東宝サラリーマン映画のメディア史的研究	谷原 吏	64
旧軍用地から工業地域への変容過程——横須賀市追浜地区を事例として パフォーマティヴィティの基盤としての間身体的ナルシズムの探求 ——バトラーによるメルロ＝ポンティ解釈への批判を通じて	塚田 修一 長野 慎一	78 92

書評

書評：松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉編 『アフリカで学ぶ文化人類学——民族誌がひらく世界』	板久 梓織	106
書評：Edited by Yoshikazu Shiobara, Kohei Kawabata and Joel Matthews, <i>Cultural and Social Division in Contemporary Japan: Rethinking Discourses of Inclusion and Exclusion</i>	王 暁音 郭 笑蕾 佐藤 祐菜 清藤 春香	110
書評：阪本博志著 『大宅壮一の「戦後」』	佐藤 卓己	115
著者リプライ	阪本 博志	119
書評：笠井賢紀著 『栗東市の左義長からみる地域社会』	武田 俊輔	121
著者リプライ	笠井 賢紀	125

2019年度三田社会学会大会報告要旨

国際結婚移住女性の主体性と生活戦略についての考察	郭 笑蕾	127
熊谷一彌、日本初のオリンピックメダリストにして花粉症患者 ——花粉症の歴史と人類学にむけて	住田 朋久	131
『三田社会学』投稿規定および執筆要項		

三田社会学会編
